

広島大学短期交換留学プログラム 派遣留学報告書

記入日 2019 年 9 月 27 日	
派遣プログラム	<input checked="" type="checkbox"/> HUSA <input type="checkbox"/> USAC <input type="checkbox"/> UMAP
留学先大学	ハンブルク 大学 (国名：ドイツ)
所属学部・学科等名	日本語学科
在籍身分	交換留学生
留学期間	2018 年 9 月 1 日 ~ 2019 年 8 月 19 日

1. 留学するまで	
留学への志望動機・派遣先大学を希望した理由	大学在学中に1年間の留学をしたいと入学した当初から考えていたから。また2015年の夏にも同大学のサマースクールに参加しており、その時にハンブルクが気に入った為。
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?)	2017年夏頃に大学院試験が不合格になってしまい、その後に留学をしようと決めたので大体2ヶ月前。
事前準備について (どのような準備をしたか、しておけばよかったか)	留学中にやってみたいことを具体的でなくても良いけど、思い描いておく。例えば、ドイツ語の本を沢山読む、あの国とあの国に行く、ヨーロッパを鉄道旅したいなど。また、ドイツ語の動画等を見たりして、なるべくドイツ語に体を慣らしておく。

2. 渡航について	
ビザについて	ビザの種類： 学生ビザ
	ビザ申請先： ハンブルク・ウェルカムセンター
	提出書類：パスポート、証明写真、住民登録証明書、受け入れ証明書
	手続きに要した日数：約二週間
その他必要な事前手続き	
出国年月日	2018 年 8 月 31 日
経路(往路)	関西空港→仁川国際空港→ハンブルク空港
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有(大学関係者・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無
到着後オリエンテーションの有無・期間・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 有(期間：10月の最初の週 内容：ハンブルクでの学生生活の「いろは」) <input type="checkbox"/> 無
帰国年月日	2019 年 8 月 20 日
経路(復路)	ハンブルク空港→ドバイ空港→関西空港

3. 留学費用について

支出額	総額	2,027,000	円	
	内訳	渡航費（往復）	160,000	円
		ビザ申請手数料	7,000	円
		予防接種費用		円
		保険料	200,000	円
		教材費（授業料以外の学費）		円
		宿舍費（住居費）	500,000	円
		光熱費		円
		食費	500,000	円
		通信費（インターネット・携帯）	10,000	円
		交通費（宿舍－大学間）		円
		交際費	150,000	円
		その他（ 娯楽 費）	500,000	円
（ 費）		円		
（ 費）		円		

4. 授業・修学について

授業の概要について （カリキュラム、プログラム、履修した科目、時間数、履修形態等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語 ライティング B1 (DaF) ・独和翻訳(日本語学科) ・ディスカッション(日本語学科)
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業・勉強についてのアドバイス （留学前の履修、留学中、単位取得等）	<ul style="list-style-type: none"> ・基本はオンラインで履修登録をしますが、その登録期間が短い、かつドイツ語の語学の授業は熾烈な争いになります。ただ、もし人数が満員に達しても直接教員に話をしたり、授業初日に教室に行けば意外と受け入れてくれます。
日本と異なる授業形態などにおける困難や挑戦（ティーチングスタイル・先生と学生の関係性など）	<ul style="list-style-type: none"> ・DaFの授業では同じクラスにいる様々な国の人とテーマについて話し合う時間が設けられています。 ・日本語学科での授業は基本サポーターとして参加するので、日本語を勉強しているドイツ人の会話の相手になったり、漢字の間違いを直してあげたりします。

5. 生活等について

(1) 留学先の住居について

住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他（ ）		
住居の広さ	約 30 m ²	同居人の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有（3人） <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他（ ）		
住居費	1ヶ月当たり 349ユーロ(現地通貨)		約 40,000 円
留学先での住居全般に関するアドバイス	食器や洗剤、トイレトーパーは共有なので同居人とコミュニケーションをとっておくと、生活のストレスが減る。		

(2) 医療について	
保険の加入先	■ 本学指定の保険 ■ 留学先大学指定の保険 □ その他 ()
保険の補償内容	補償額 死亡 円、 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種の必要の有無	□ 有 (種類: 回数: 医療機関名:) ■ 無
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	友人が緊急搬送されることがあり救急車を呼ぶことができましたが、救急車はすぐに到着し、難を逃れました。
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	1日の寒暖差や乾燥が日本より強いので、風邪をよく引きます。ただドイツでは薬よりも紅茶やスープで病気を治そうとする文化があるので、困った時は薬も大事ですがドイツ人に現地の治療方法を聞いてみましょう。
(3) 危険を感じた地域、状況、安全管理において注意したこと	
基本的に夜はほとんどの人が気持ちよく酔っ払っているので、駅周辺や飲食店が連なる場所では賑やかになります。それゆえ、自分自身も酔っ払ってれば特に危険には感じませんが、素面の状態だと物騒に感じるかもしれません。なるべく電車や夜道では一人っきりになるのではなく、屈強そうで優しいドイツ人の近くに陣取っておくと何かと安全です。	
(4) 食生活についてのアドバイス	
まずはケハブを食べてみてください。感覚としては持ち運び可能なお好み焼き(広島風)です。野菜、肉、炭水化物がバランス良く摂取できるので週に一度ペースで食べると良いかもしれません。レストランでは飲み物を注文することが一応マナーとなっており、チップ等も含めると大体日本の2倍ほどの会計になります。ただその分料理のボリュームはあるので、残さずに食べてしっかり栄養補給してください。お酒は程々に。	
(5) 気候・服装についてのアドバイス	
ハンブルクは日本より北に位置するため、5月ごろから日がかなり長くなります。夜の9時まで昼のように明るく11時頃に夜がやってきます。一方冬は、日が冗談みたいに短く午後5時には真っ暗です。そして、夏は涼しく気持ちが良いですが、冬の寒さは骨の髄まで沁みますので、マフラー、ニット帽等はオシャレのためではなく生存するための必需品になってきます。	
(6) 学内外の施設・設備環境について (インターネット環境含む)	
この1年間電話はどこでもできるのですが、Wi-fi環境が無いとインターネットが使えない状況でした。ただ、町の至る所(Apple shopやマクドナルドや大学)でWi-fiが使えたので、意外と困らずに生活ができました。ドイツの学生だとヨーロッパのほとんどの大学機関で「Fedurom」というWi-fiが使えるので、旅行中に困ったら、とりあえずどこかの大学に行ってネット環境を使えるようにしていました。	
(7) 現地学生や地域との交流について (どのような、機会・きっかけがありましたか?)	
まずは入学の手続き等を手伝ってくれる現地学生のチューターが最初に出会う人です。そこからパーティーで知り合ったり(ドイツではやたらパーティーが多いです)、日本語の授業にサポーターとして参加することによって自然に知り合いが増えて、そしていつの間にか友達になっています。また大学にいる日本人の先生方から他の日本人の方を紹介してもらい地域交流に繋がりました。	
(8) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと	
ドイツに限らずヨーロッパでは挨拶が大事です。「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」から始まって、「ありがとう」、「さよなら」を言って別れることが自然で当たり前に行われています。そしてハンブルクには便利な挨拶として「Moin(モイン)」というのがあり、これは一日中使えるし、使うとハンブルクの人が喜んでくれます。また親しい友達には親しみを込めてハグをします。最初は恥ずかしいけど、慣れてくると良いなあって思える慣習になります。	

(9) 日本から持っていくべきもの、持っていくべきでないもの

- ・「地図帳」を持って行くと旅の計画や友達との会話で意外と盛り上がります。
- ・「けん玉」があると暇つぶしにもなるし、みんなと遊ぶ時にヒーローになれます。

(10) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス

コミュニティを大事にしてください。他の日本人留学生、日本語を勉強しているドイツ人の学生、ドイツで働いている日本人の方々。出会いが留学生生活を本当に豊かにしてくれます。

6. 帰国後の進路について

卒業予定年月	2020 年 3 月 (当初の卒業予定年月 2018 年 3 月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input checked="" type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他（具体的に _____)
現在の状況および今後の予定・進路等	就職活動を進めつつ、残りの単位を取得するために大学にも少し通う。出来れば今年度中の就職を目指しているが、果たせなかった場合は来年度既卒生として就職をする予定。
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	

7. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等

書籍、サイト名	詳細（出版社、URL 等）	コメント

8. 後輩へのメッセージ

僕はこの留学のことを人に聞かれていつも、「自分の頭で思いつける限り、時間とお金が許す限り、思いっきりやり切った!」と言っています。本当にそう思っています。もし留学をするかしないかで迷っているのなら、是非「思い切って」留学をしてみてください。もしドイツビールを飲んでソーセージを食べることが許されるのなら、僕が皆さんの責任を取ります。

9. 自由記述 (1,200 字程度)

長いようで短いようで、やっぱり長かった留學生活が終わりました。「留學どうだった？」と周りの人は僕に尋ねます。そしたら僕は池上彰みたいに「良い質問ですねえ」と言った後に、中ジョッキに入ったビールをグビグビと飲んで（大体居酒屋が友達との再会の場になりがち）、こう答えます。

「自分の頭で思いつける限りのことを時間とお金が出す限りに思いっきりやり切れた！って言える留學だったよ」

それでは、そのような留學とはどんなものであったのか？少しばかりですが僕のとても個人的でちょびっと自由な留學生活をご紹介しますと思います。

もちろん留學ということなので、ドイツ語の授業に参加したり、授業の合間にドイツ人と勉強し合ったり、小説などを讀んだりしてドイツ語の表現を磨く日々を送っていました。それ以外にこの留學期間で僕が個人的に頑張っていた活動は、「日本語サポーター」と「けん玉教室」です。

ハンブルク大学では日本語学科の授業にサポーターとして参加することができます。例えば会話の授業ではドイツ人が生きた日本語に触れられるように彼らの会話の相手をしたり、漢字の書き順や読み方などを教えてあげたりします。僕はそのサポーターの授業にほぼ全て参加しました。そのお陰で多くの学生に顔を覚えてもらい、授業中やそれ以外の時でも仲良く話をするようになりました。この貴重な経験は僕に「日本語を学ぶ」ということを学ばせ、「日本語を教える」ということを教えてくれました。

もうひとつの「けん玉教室」では、ドイツ国内の幼稚園や日本人学校、インターナショナルスクール、日本祭りなどでけん玉の魅力を伝えてきました。日本にいた時からサークル活動の一環で子供や大人や留學生など、様々な人とけん玉を通じて交流していました。そこで、この留學中もドイツでけん玉教室をしたいという思いを伝えると、沢山の人がそれに興味を持ってくださりました。けん玉を教える時は主に日本語でしたが、時には拙い英語やドイツ語と身振り手振りをういてコミュニケーションをとりました。「いつでも、どこでも、誰でも遊べる！」がけん玉の持つ魅力の一つですが、この経験を通じて改めてその通りであると実感しました。言葉が通じなくてもけん玉を片手に持てば、国境も年齢も超えて多くの人が楽しめる、そんな空間を作ることに一役を担えたことはとても嬉しかったです。

その他にも、ハンブルクで過ごした日々は思い出に溢れています。天気の良い日に街をただただブラブラしたこと、ドイツ国内を含め多くのヨーロッパの国々を旅したこと、ドイツ人をドイツ語で笑わすために沢山ヘンテコりなドイツ語を覚えたこと、浴びるようにビールを飲んで何度も何度も「Ich habe Kater. (私は猫を持っている。→私は二日酔いです。)」を呟いたこと。

もちろん後悔したこともたくさんあります。でも、思いっきり後悔しきるとそれは思い出に変わりました。（例えば、ノルウェーで寝坊して大事な電車に乗り遅れたこと、携帯をスペインのベンチに置き忘れて紛失したこと）

帰国して約1ヶ月がたちました。最初は留學が終わった自分自身をうまく日本の生活に馴染ませることに苦労しました。最近は留學を経験した自分を自分自身の一部に出来てきた気がします。ハンブルクという、もう一つの自分が帰って来られる故郷ができた気がする、そんな一年になりました。

ダンケシューン。

注1) 報告書およびその内容は、留學希望者への情報提供のため、HUSA ホームページおよび広島大学ホームページへの掲載、事務室での閲覧や大学の留學情報案内の作成のために利用させていただきます（氏名及び学生番号については、非公開とします）。ただし、公開にあたり不適切と判断された内容については、国際交流グループにて削除等させていただきますので予めご了承ください。